



瑞中だより

学校だより第4号
平成29年6月21日
瑞穂町立瑞穂中学校
〒190-1211 瑞穂町石畑1961-1
TEL 042-557-0070

二十八の瞳

校長 池谷 芳彦

本校に教育実習生が来た。教職を目指すさわやかな青年である。その彼に、昭和の名作である、壺井 栄の小説『二十四の瞳』について聞いたところ、あまりピンと来ないようだった。

時代とともに理想の教師像、人気ドラマ等に登場する先生の姿も変化する。中学教師ドラマとして大ヒットした『3年B組金八先生』はあまりにも有名だが、平成生まれの若者に「大石久子先生（おなご先生）」と言っても遠い過去の物語であろう。『GTO』や『ごくせん』のような破天荒で規格外な高校教師、あるいは、リアルな中学教師の『鈴木先生』の方が馴染みが深いのかもしれない。また、最近の『暗殺教室』『殺せんせー』となると、先生は人間ではない謎の生物だ。あまりにも現実離れしており、これはもう私の方がピンと来ない。しかしながら、教師像としてその根底にあるものは、先生として子供たちのことを一番に考え、子供たちとの信頼関係を築いていくことを大切にしていることだ。ドラマ等に登場する先生は、権力に屈せず、周囲に流されない強い意志をもっている個性的な教師であり、ヒットする理由は、たとえ現実にはあり得なくても、そのような教師の姿にどこか憧れがあるからに違いない。そして、物語は学級集団を舞台に展開されることがほとんどである。『3年B組金八先生』の原作者の小山内 美江子氏は、生徒のためになりふり構わずぶつかっていく青年教師像を描いて成功した。かつての「青春ド真ん中」など青春シリーズで描かれていたドラマの中の教師は、運動神経抜群のスポーツマンタイプが高校に新しく赴任し、部活動でスポーツを通して生徒たちと心を通わせていくスタイルであったが、小山内氏が生み出した「坂本金八」は、熱血さと人間らしさのある実生活にリアルな教師であり、どこまでもとことん子供たちのために突き進む教師であった。

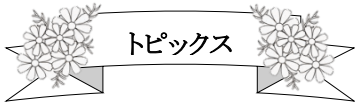
さて、表題の「二十八の瞳」は、小説『二十四の瞳』の書き違いではなく、学園ドラマでは少しだけ登場することはあっても、けっしてメインとはならない校長室のことである。ご存知のとおり、ほとんどの学校の校長室には、歴代校長の写真が飾られている。本校では私が第15代なので、14名の歴代校長先生方の写真がある。「二十八の瞳」に見つめられている。正直、赴任当初はこの瞳が怖かった。「お前は何をしているのだ」「それでも校長か!」と言われていたような気がした。今でも怖いことには変わらないが、最近では、自分自身の気持ちによって、写真なのにその表情が変化して見えるようになった。独りで校長室で気がふれてしまった訳ではない。例えば、教職員の努力によって、生徒が生き生きとし、行事などが大成功して校長室に戻って来ると、「まあまあだな」「よくやったな」と褒められているような表情に見える。逆に、事件や事故等があると、「しっかりしろ!」と叱られる。難しい案件の解決策を写真に問いかけてみても、けっして答えは返ってこないし、生徒の学力向上策についても「自分で考えなさい!」に決まっているが、いつも「二十八の瞳」に見守られているのだ。

東京都が求める教師像

- 1 教育に対する熱意と使命感をもつ教師
- 2 豊かな人間性と思いやりのある教師
- 3 子供のよさや可能性を引き出し伸ばすことができる教師
- 4 組織人としての責任感、協調性を有し、互いに高め合う教師

教員が身に付けるべき力

- 学習指導力
- 生活指導力・進路指導力
- 外部との連携・折衝力
- 学校運営力・組織貢献力



〔体育祭編2〕各クラスの思いが込められた応援旗をご覧ください！



◎瑞穂中学校は「いじめ」を許しません！

いじめに限らず、何かありましたら学校へご相談ください。電話 042-557-0070

◎不審者に十分気を付けましょう。何かあったら、まず、「110番」！

☆福生警察生活安全課より

先輩や知らない人から頼まれて、物や現金等を受け取る行為、これは、実は“振り込め詐欺”の受け子の仕事。何の罪の意識ももたないで犯罪に巻き込まれることがあるそうです。十分注意しましょう。